

# とらおん



2024年12月16日 NO.667

「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会 広報部  
〒460-0018 名古屋市中区門前町1番23号

東海教区教務所内

TEL 052-321-0028 FAX 052-332-4097

e-mail info@tokai-hongwanji.net

## 東海教区名古屋組 活動報告

名古屋組は、名古屋市を中心とする尾張地方全域に位置するため、多くの行事は本願寺名古屋別院をお借りして活動しています。

今年度は、10月25日（金）に西別院職員の小椋一樹さんを講師に「み教えと差別の現実について」を課題として「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）研修会を開催いたしました。

そして、来年1月29日（水）には岐阜教区中川南組蓮教寺住職の高田篤敬さんを講師に僧侶研修会を開催する予定です。

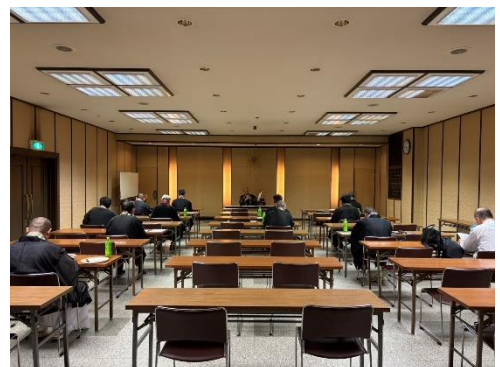
連研については、東海教区唯一の未開催組です。組としてその重要性を認識し、実施に向けて長年「連研」研修会という形で年1回もしくは2回開催してきましたが、完全実施にいたらず年々参加者が減少したうえ、コロナ禍で残念ながら休止状態になっています。

また、名古屋組は39カ寺と寺院数が多く広範囲に点在しているため、寺院間の交流が少ないのが実状です。そのようなことから、組として寺院間の横の繋がりが深まればと考え、キッズサンが開催寺院（今年度は2カ寺）には、組内全カ寺に案内を出していただくようお願いしています。

さらに、組教化団体の寺院女性連盟、寺族青年会、仏教女性連盟の活動では、今年度も各団体が勉強会や研修旅行、懇親会等を企画し実施をしています。

### Contents

名古屋組活動報告	P1
協賛行事・三法要	P2.3
特集	P4.5
こころばなし	P6
お坊さんの書棚	P7
声/編集後記	P8



研修会の様子

## 東海教区・本願寺名古屋別院

「親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要」並びに  
「本願寺名古屋別院本堂復興 50 周年記念法要」（三法要）について

### 【協賛行事】

9月14日（土）、三法要の協賛行事を開催し、約400人の参加がありました。境内ではキッチンカーや雑貨店が並ぶ「デラテラス」を開催し、午後からは本堂で一般社団法人オセッカイダー代表のレモン（山本シュウ）さんによる講演会と、本願寺派特別法務員でひちりき箏演奏者の深親亮介さんによる「箏コンサート」が開催されました。



デラテラスの様子



「命をつなぐ感謝のバトン～笑あり、涙あり、感動ありの爆笑トーク～」と題して講演



雅楽の有名曲や民謡などを演奏

## 【三法要】

10月6日（日）、大谷光淳ご門主様御親修のもと、「親鸞聖人御誕生 850年・立教開宗 800年慶讃法要」並びに「本願寺名古屋別院本堂復興 50周年記念法要」が厳修されました。法要には別院門信徒や教区内などから約 1100 人が参拝しました。

また、日中法要後に帰敬式が執り行われ、45 人の門信徒が受式しました。連夜法要終了後にはご門主様にご臨席され、名古屋マリオットアソシアホテル（名古屋市中村区）を会場に、86 人が参加し盛大に祝賀会が催されました。祝賀会では熊谷正明輪番、弘中貴之随行长、廣瀬邦彦責任役員総代が挨拶し、松野尾慈音宗会議員の乾杯で開宴。最後に青山法城教区会議長が挨拶し閉会しました。

教区内寺院の皆さま、ご縁をいただいている皆さま方のおかげにより無事法要が円成致しましたこと、また、記念事業完遂に向けて尊いご懇志をご進納くださいましたこと、御礼申し上げます。誠に有難うございました。



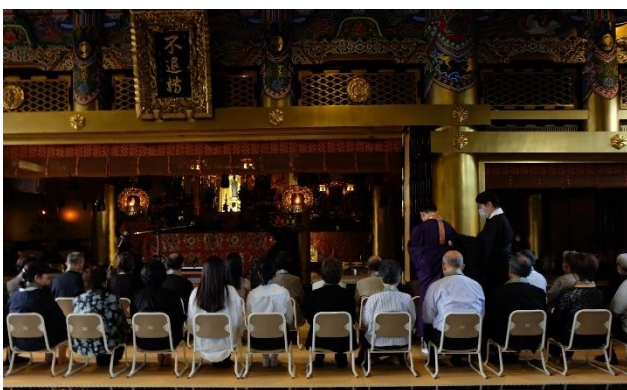
大谷光淳ご門主様 御親教



導師を勤められる大谷光淳ご門主様



日中法要



帰敬式



祝賀会

# おしえて! 「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会

## ってどんな組織?

『とうかい』は「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会の中の広報部が発行しているんだね。いろんな委員会や部や団体があるなあ。どんなふうに関わって活動しているか知りたいな。



広報部 日野

ごんごんちゃん、ありがとう。「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会は多くの部や委員会、団体が関わって構成されているよ。それぞれの代表の方に、どんな活動をしているか、課題と捉えていることは何か、聞いてみたよ。  
～各団体の皆さま、アンケートへのご返答ありがとうございます。順不動にて掲載してまいります。～

## 「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会



委員長 大島昭人

### ●具体的な活動・予定●

宗制前文にある「あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」を基本理念として、宗祖親鸞聖人の「御同朋(ともにお念仏を喜ぶ仲間)」の精神を受け継いで、差別や被差別からの解放をめざすことを中心に、教区内の僧侶・寺院活動を推進していくことを目的としています。

具体的には、同朋部・連研部・組実践運動リーダー委員会・広報部・子ども若者ご縁づくり委員会の5部門を組織して、それぞれに僧侶や門信徒・その他一般の方などを対象に、研修会や講座で学習の機会を設けたり、広報誌等を発行して啓発活動をしています。

### ●読者へのメッセージ●

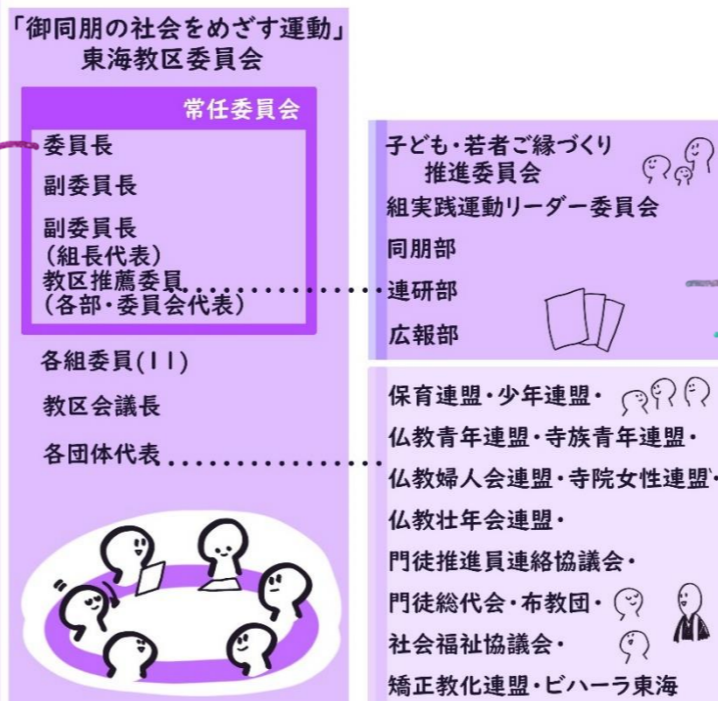
これからも「御同朋の社会をめざす運動」に、皆さまのご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

### ●活動の課題●

課題の一つは、COVID-19感染症による活動停滞期間によって「御同朋の社会をめざす運動」の重要性が見失われてきたことです。約3年間の空白によって「同朋運動」の頃より培われてきた「反差別」の意識が、ずいぶん低下してきたように思います。これまでも同朋運動の研修会は、重要性が理解されながらも積極的な参加が多くはありませんでした。ましてや休止していたのですから、一層熱量が下がってしまったのかも知れません。

もう一つの課題は、この運動は教区や組の委員会委員や役員、または連研講師など得意な人がやるものであって、それ以外の僧侶・寺族・門信徒は関係ないという風潮です。もちろん中心となって進めるのは委員や役員かも知れませんが、それ以外の方々もそれぞれに「御同朋」の精神を学びつつ広める活動をしていくところに、「自信教人信」に通じるものがあると思います。

## 「御同朋の社会をめざす運動」東海教区組織図



## 連研部

### ●具体的な活動・予定●

「連研のための研究会」(連研スタッフのために、話し合い法座のテーマを深掘りし、理解度を深める)と「僧侶のための12の問い」(研修講師の研鑽の場)を開催しています。各組で実施されている連研の講師役は、布教使などと比べたときに進行の仕方を含めた研鑽の場が少ないとの意見をくみ、数年にわたりいくらかその研修の場を設けてきました。

### ●活動の課題●

上記周知はされ、皆さん知っているのは間違いないのですが、恐らくその必要性の優先順位が低く、参加者が過度に少ないことが課題です。

### ●読者へのメッセージ●

連研を実施しても各お寺にその成果がすぐには実感できず、準備などで時間が取られるばかりに思われる方もいるかもしれませんが、ご法義繁盛には大切な要素の一つが連研だと思います。



部長 山下亮

## 広報部

### ●具体的な活動・予定●

『東海教区報』(広報紙)の発行～年12回発行しています。各種研修会の案内・報告などお知らせしているものです。

『とうかい』(運動啓発紙)の発行～年4回発行しています。各種特集やこころばなし、書棚など読み物として「御同朋の社会をめざす運動」の啓発に努めているものです。

その他～2021年には「東海教区のあなたに」という冊子を発行しました。これは東海教区内で1993年に起こった差別発言事件を振り返り、二度と繰り返さないため、あらためて皆さまに考えていただくために作成したものです。

### ●活動の課題●

特集のテーマ設定にいつも頭を悩ませております。声や書棚など、幅広く投稿をいただけるとありがたいです。紙面の感想を直接伺いする機会が少ないので、感想をお寄せいただけると今後の参考になります。

### ●読者へのメッセージ●

紙面作成にあたって教区内の皆さまには声を寄せていただいたり、各種ご執筆いただいたり、いつもお世話になっています。今後も読み応えのある紙面を目指していきます。企画などのご要望やご意見がありましたら、ぜひお寄せください。



部長 日野道広

## 『チリだらけ、アカまみれ』

竹本 崇嗣（刈谷布教所光照寺）

悲しいことがあって眠れない夜は、耳そうじの動画を見ている。

難聴や耳鳴りを生じるような、耳の穴を完全にふさいでしまうほどの巨大な耳アカがいて、ねいに取り除かれ、うす桃色の地肌が見えてくると、言葉にならない心地よさをおぼえます。使用される極小のピンセットや鉗子（ハサミ型の医療器具）、吸引器などからは工業技術の発展が感じられて実に頼もしく、それらを使いこなす医療従事者の研鑽には頭が下がります。

動画内に登場するのは「どうしてこんなになるまで放置したのか？」という耳アカの持ち主ばかりですが、耳という器官は顔の横についているせいで視界に入りにくく、聞こえにくいなどの問題が生じて初めて診察に訪れる患者が多い、とのことでした。つまり耳そうじ動画になぐさめられている自分の耳にも、どんな大物がひそんでいるのか分かったものではない、ということです。他人ごとではすまされないのですね。

お釈迦さまによって阿弥陀経が説かれたとき、その聴衆の中にチューダパンタカ（周利槃陀伽）というお弟子がおられました。

生来愚昧であったが、釈尊に教えられた「塵を払い、垢を除く」という短い言葉を繰り返してさとりを得たという。（『浄土真宗辞典』）



はじめて解説を読んだとき「ひどい人物評だな」と感じたものですが、みずからの名前すらも覚えることができなかった、との逸話を聞くと「それじゃあ仕方ないか」と思われます。賢い兄との落差に周囲から笑いものにされ、涙をこぼす姿には胸を衝かれます。お釈迦さまの教えを疑いなく守り、ついにさとりを得たところでは敬いの気持ちを抱かされます。

有名な説話ですから、仏教各宗派でも取り上げられていますが、それぞれ印象が異なるのが興味深いところです。たとえば継続や努力を勧める説話とするもの。あるいはどんな者にもさとりの種がそなわっている説話とするもの。浄土真宗のみ教えをいただく身としては、どのように聞き受けていくべきなのでしょう。

払い除くべき塵と垢は煩惱であり、「煩は身をわづらはす、悩はこころをなやます」（『註釈版聖典 708 頁』）とあるとおり、身心を煩わせ、悩ませます。

代表的な煩惱は「三毒・三垢」とも呼ばれる「欲と怒りと愚かさ」であり、これらの煩惱から命終わるその瞬間まで離れられないのが、凡夫という存在です。チューダパンタカさまはこの離れがたい煩惱を払い、除いたからこそ、さとりを得られたのでしょう。

そんなお方が阿弥陀経の聴衆として描かれていることには、大きな意味があると思われます。

阿弥陀経には一心不乱にお念仏を称えて、自らの往生に役立てようとする自力念仏の教えが説かれているように見えます。しかし本当の目的は自力をもってはけっして信ずることができない、他力念仏の教えを説くことにあった、と見ていかれたのが親鸞聖人でした。

それはチューダパンタカさまを愚かと決めつける私の思い上がりを明らかにし、チリまみれ、アカだらけの凡夫である私のために説かれたみ教えがあることを示してくださるお姿でした。

## 『自分とか、ないから。教養としての東洋哲学』

著・しんめいP 監修・鎌田東二 サンクチュアリ出版

今年の夏、義父が「これ面白いよ」と薦めてくれたのが本書である。

普段口数の少ない義父がわざわざ薦めてくれたのだから、きっと面白いに違いないと、読み始めた。まず、表紙の帯の『生きづらさが(少し)マシになる(かもしれない)』という断定しない曖昧な表現が読む気にさせてくれる。

著者は東大卒、大手 IT 企業に就職し…という華麗なように見える経歴を持ちながら、後に引きこもりになり、ブログ系 SNS の note で『東洋哲学本 50 冊読んだら「本当の自分」とかどうでもよくなった話』を綴った。それが少し話題になり、本書が出版されることに至ったようだ。つまり、この本は東洋哲学の研究をしている学者さんが書いたものでもなければ、どこかの宗派の僧侶の方が書いたものでもない。

本書は 337 ページあるが、55 ページには

「この本、仏教関係者のひとよんでたら、ほんまごめんなさい!!これ以上読まないでください!!」と書いてあった。とても親しみやすく、好感をもてると思った。

ある浄土真宗本願寺派の僧侶 YouTuber の方も、本書を紹介されていて、「仏教のエンターテイメントとして読むとすごく面白い」みたいなことをおっしゃっていた。とても的確でこれ以上の表現の仕方はないと思う。

本書では、画像が多様につかわれていて、視覚的にも楽しめるので、「我が家のプチ反抗期な子ども達」や、「最近字を読んでると眠たくなるのという人」にもオススメしたい。



## 『悲しみの秘義』

著・若松英輔 文春文庫

著者は 1968 年生まれのカトリック信者でもある批評家、随筆家。本書は死者やかなしみ、孤独について古今の名著のことばを紐解きながら綴った 26 編のエッセーがまとめられている。引用されたことばそのものがそれぞれに心を揺さぶり、考えさせられるものでありながら、著者の視点を通したとき再度そのことばを深く味わうことができる。

『見えないから不確かなのではない。見えないからこそ、いっそう確かなのだ。』『孤独の経験は、私たちに孤立させるのではない。むしろ、他者と結びつく契機となる。』本書には一見矛盾しているかのように感じる文章がある。

しかし、自分のこれまでを振り返ったとき、そのことが矛盾ではなく確かにその通りであったと感じられる。きっと読み手の経験によって本書は様々な表情をみせてくれるのであろう。また時間を置いて何度も読んでみたいと思わされる。

長く静かな夜に読みたい一冊です。ただ、心が波立って落ち着かない、そんなときにも静かな時間を与えてくれる一冊です。



## 『修学旅行』

先日、小学6年生の息子が修学旅行へ行ってきた。行先は奈良・京都、なかなかのハードスケジュールであった。朝の7時に学校を出発し、まず奈良へ。東大寺に40分滞在した後京都へ移動。二条城・金閣寺・嵐山・清水寺・三十三間堂・和菓子作り体験などなど、一泊二日の旅行を満喫してきた。しかしと言うか、そのスケジュールにご本山は入っていませんでした。「二条城へ行くときそばを通るのに」と思ったが、選ばれなかったようである。

現在、ご本山の修学旅行生に対する受け入れ態勢はどのようになっているのだろうか。世界遺産・国宝の建築物もあるし、交通の便も良いところにある。「見どころが多いのに」と思うのだが、選ばれにくいという印象を持っている。

「小学生が」「全体で」というところにファーストチョイスされにくい理由があるのだろう。中学生や高校生のグループ行動であれば事情が変わってきそうである。修学旅行を積極的に受け入れて、お土産に華葩（けは）の一枚でも渡してあげたら、良いご縁になると思うのだが。

さて息子は「鹿にせんべい全部持っていかれた」「金閣寺は思ったより小さかった」「清水寺は人がいっぱいだった」と子どもらしい感想を持って帰ってきた。お土産に昭和の定番であった「木刀」や「ペナント」を買ってくるかとひそかに期待していたが、さすがに時代は令和である。有名どころのお菓子で落ち着いたようだった。



## 『嬉しいお参り』

先日、お寺で七五三のお祝いをおつとめしました。近所の2歳のお子さんで、お寺でのバイオリン教室に通っている子の弟ちゃんです。七五三のチラシをお母さんが見つけて、「誰でも受けられるんですか？・・・この子、生後2か月からお寺にくっついて通っているから、神社より、慣れたお寺で受けられたら嬉しいです。ずっと成長を見守ってくださっている仏さまとお寺のご住職、坊守さんにも見届けていただけたらなあ。」とお申し込みくださいました。

お兄ちゃんも東京からみえたおじいちゃんおばあちゃんに「ぼくがここでバイオリンを習ってるんだよ！2人ともここに慣れてるからね～」と自慢げにお寺のあちこちを紹介し、嬉しそうに過ごしていました。

記念のお念珠をお渡しして、一緒に「らいはいのうた」をおつとめしました。

お寺になじみがない若い方も、来やすいきっかけがあって、ご縁が結ばれて、それをもとに喜ぶことができる。お寺にいさせてもらえて嬉しいなあ・・・と思うお参りでした。

## ～編集後記～

12月15日にみえ松阪マラソンのフルマラソンの部に出走します。夏頃からこの大会に向けて早朝ランニングを重ねてきました。今年は11月になっても暑い日が多く、ランニングには過酷な条件でしたが、いよいよ本番。自己ベストが出せるように頑張りたいと思っています。

近隣のみなさまには交通規制などでご迷惑をおかけすることかと思いますが、なるべく早くゴールしたいと思いますので、温かな目で見ただけると幸いです。



広報部 松野尾